アコギアレンジ基本スタイル
ストローク

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

ストロークとは？

アコギの奏法で最も基本的なスタイル。
左手でコードを押さえ、右手でリズムを弾く。
ピックを使ってオルタイネイトで演奏するのが一般的。

演奏するリズムによって幾つかの種類がある。

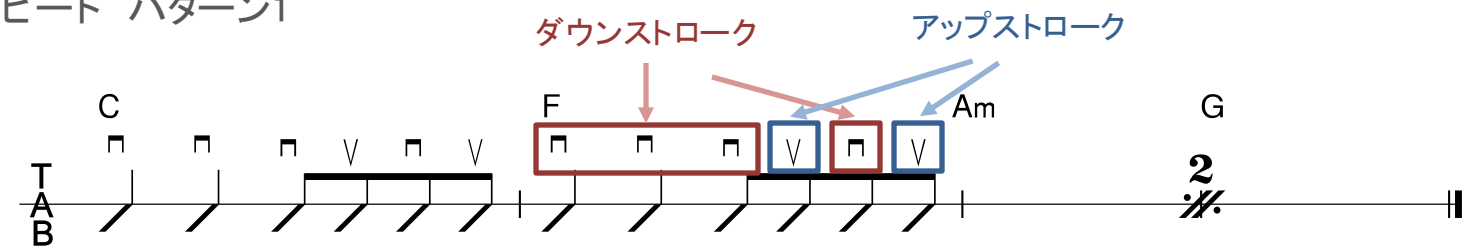
- 8ビート
- 16ビート
- 4ビート

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

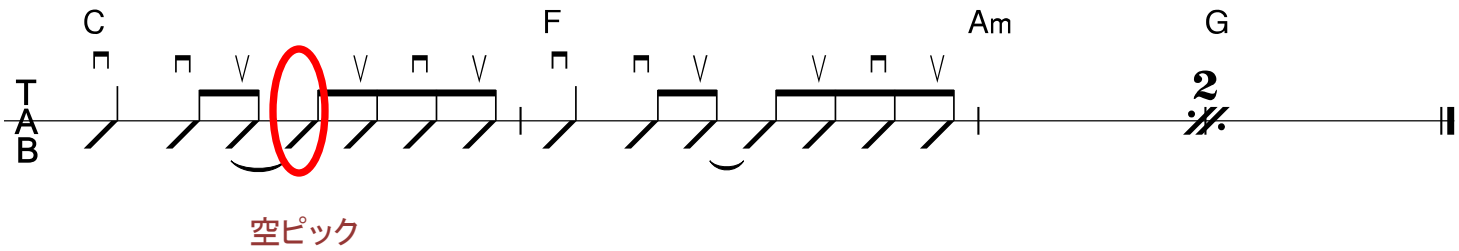
8ビートストローク

■ 8ビート　パターン1



8分音符のオモテ拍をダウンストローク、ウラ拍をアップストロークでピッキング

■ 8ビート　パターン2



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

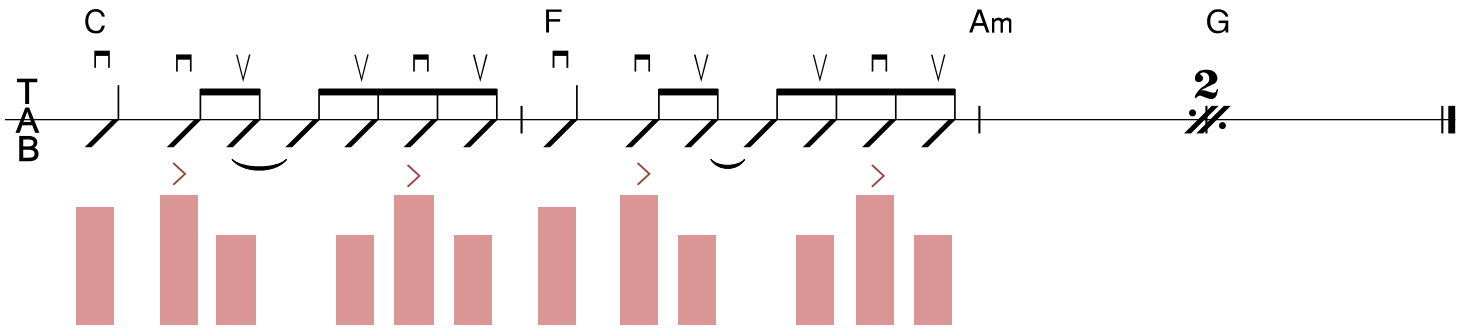
OTO×NOMA

8ビートの強弱の例

原則として2・4拍目の頭にアクセントをつけるとノリが良くなる。

オモテ拍よりもウラ拍を弱く演奏することで強弱のメリハリがく。

■ 8ビート　強弱の例



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

8ビートの打ち込み方

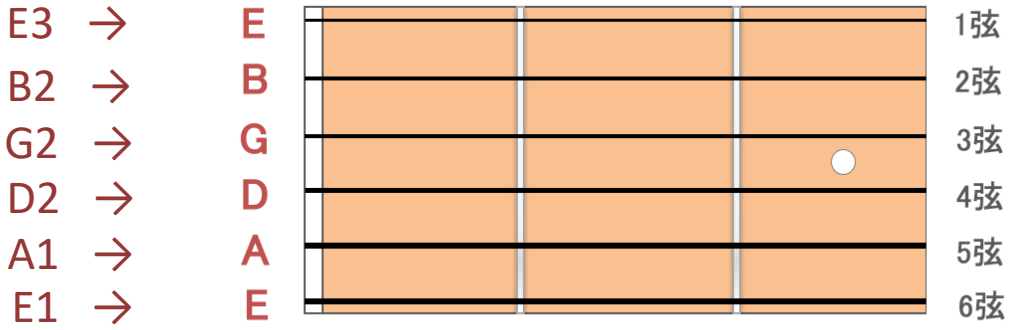
1. ベタ打ちする
2. ピッキングのズレを再現
3. ベロシティで強弱をつける
4. 発音する弦の数を調整
5. ベロシティをランダマイズ

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

アコギのチューニング

レギュラーチューニング

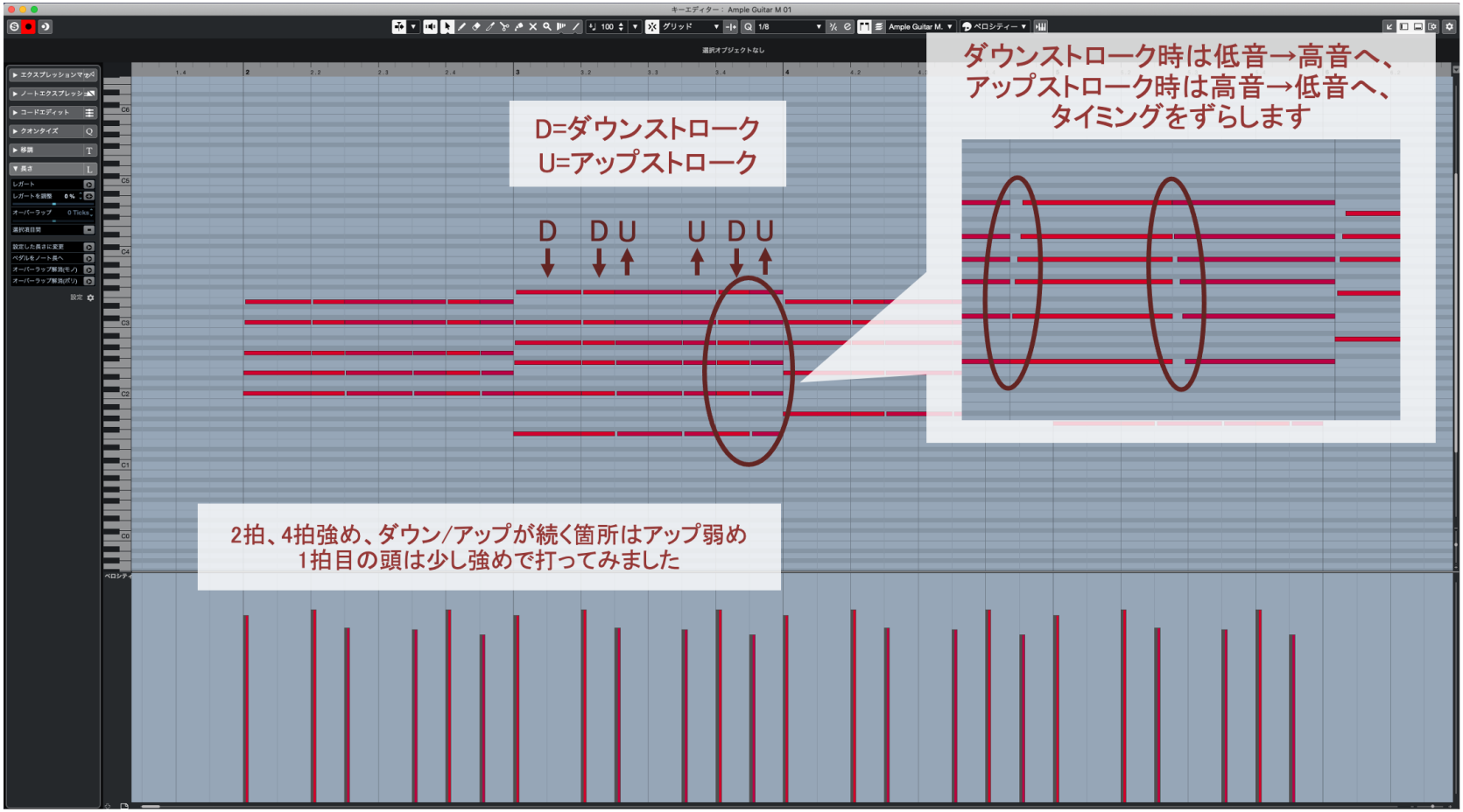


ローコードのストロークなら6弦解放（E1）～1弦3F（G3）くらいの音域で
打つとちょうど良い

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

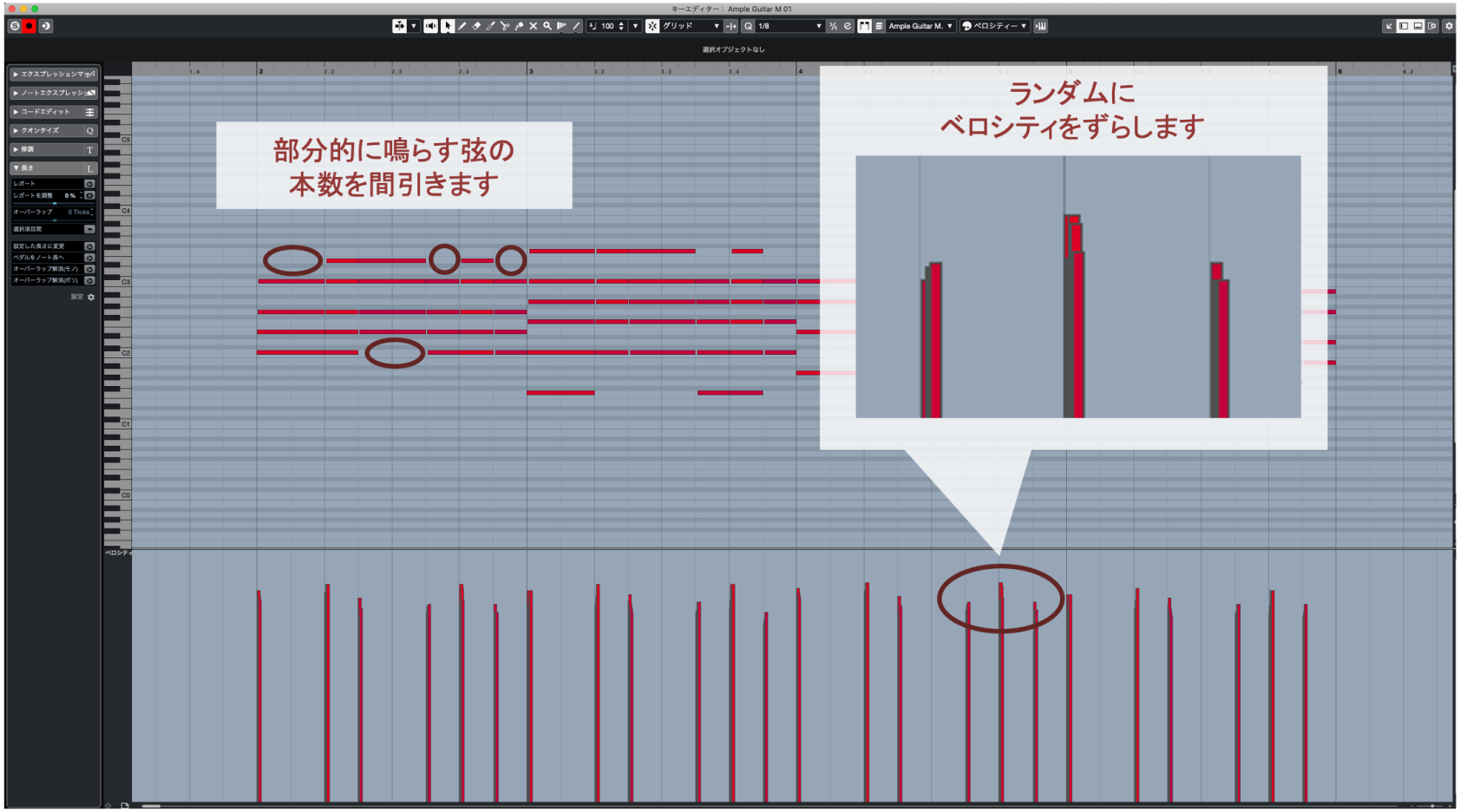
ピッキングのズレを再現～ベロシティで強弱



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

発音する弦の数を調整～ベロシティをランダマイズ

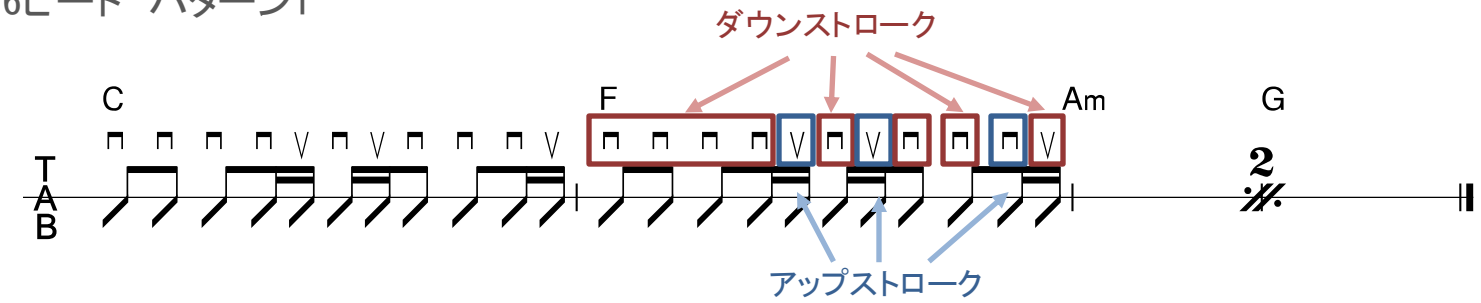


©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

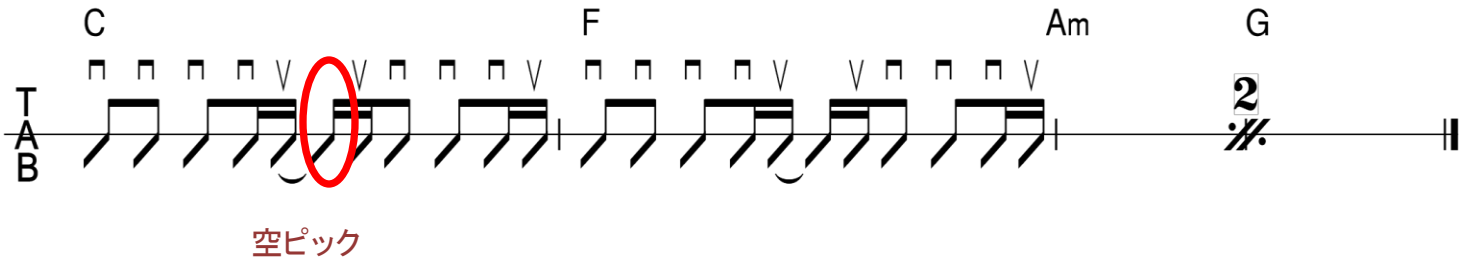
16ビートストローク

■ 16ビート　パターン1



16分音符のオモテ拍をダウンストローク、ウラ拍をアップストロークでピッキング

■ 16ビート　パターン2



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

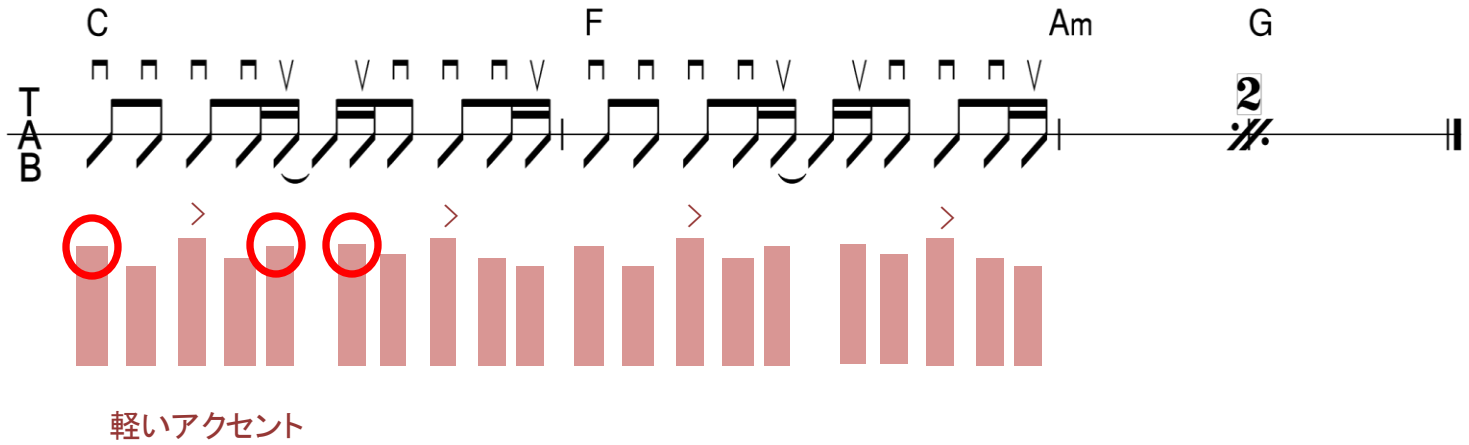
OTO×NOMA

16ビートの強弱の例

8ビート同様、2・4拍目の頭にアクセントがつく。

16ビートドラムのスネアのタイミングを参考にすると良い。

■ 16ビート　強弱の例



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

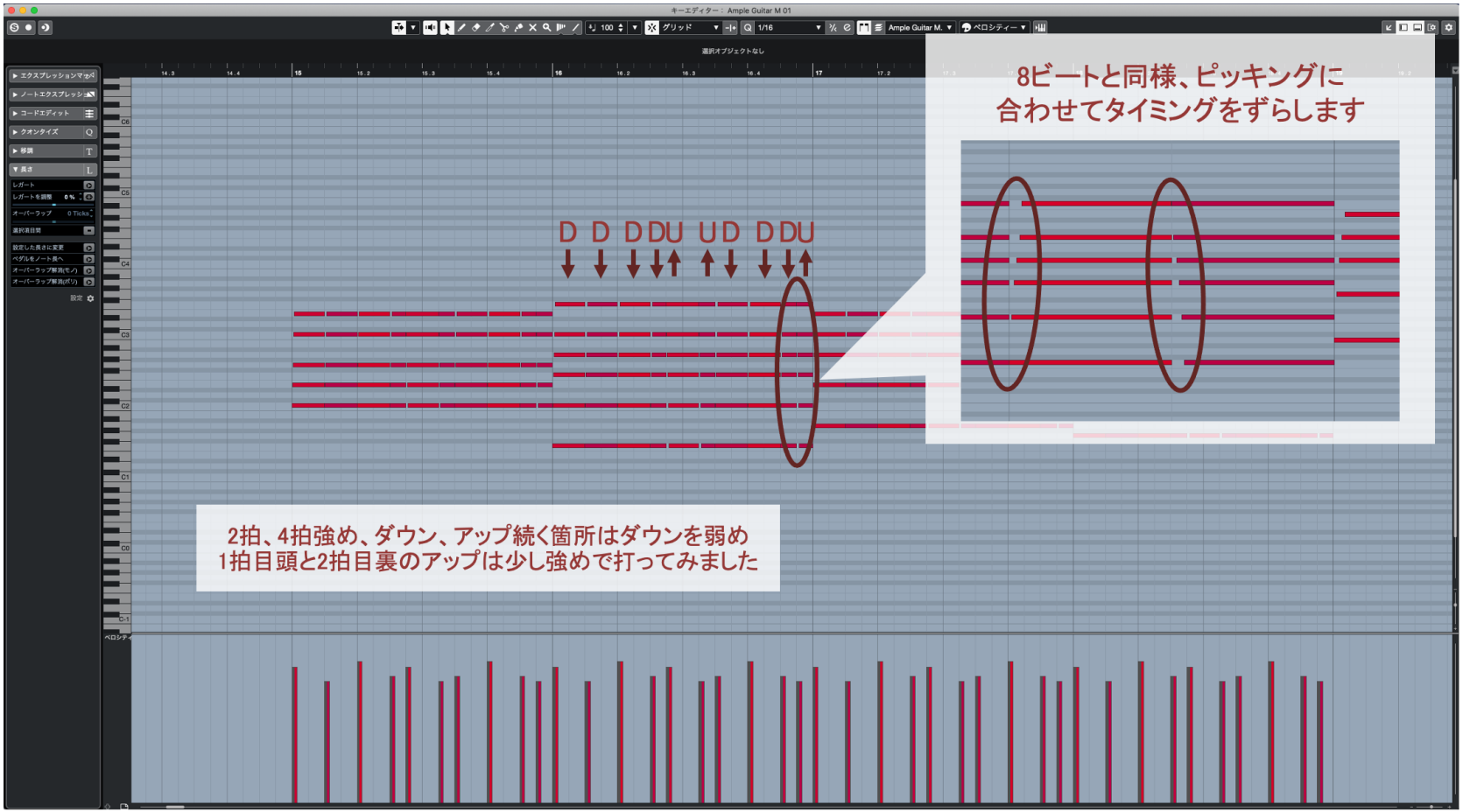
OTO×NOMA

16ビートの打ち込み方

1. ベタ打ちする
2. ピッキングのズレを再現
3. ベロシティで強弱をつける
4. 発音する弦の数を調整
5. ベロシティをランダマイズ

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

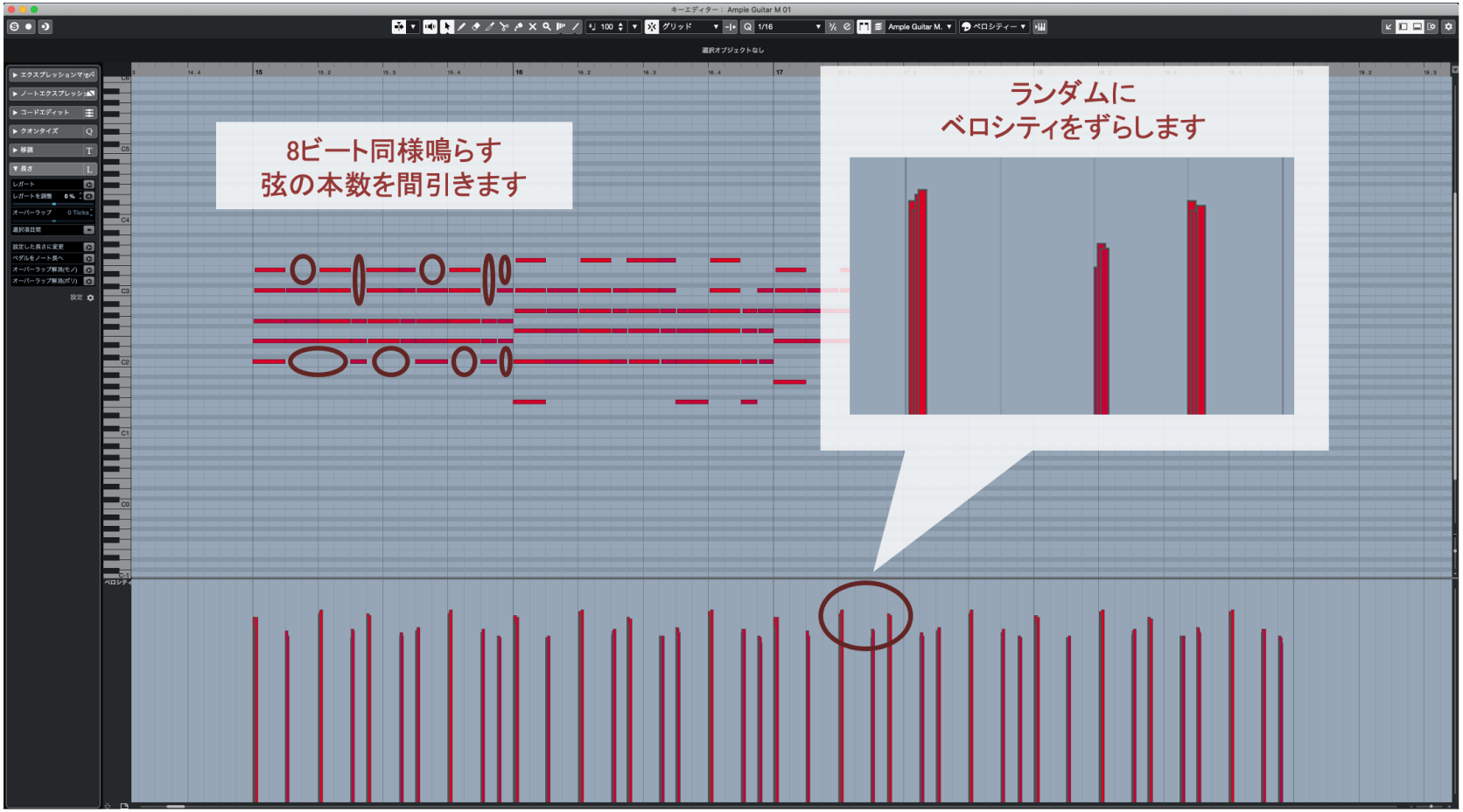
ピッキングのズレを再現～ベロシティで強弱



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

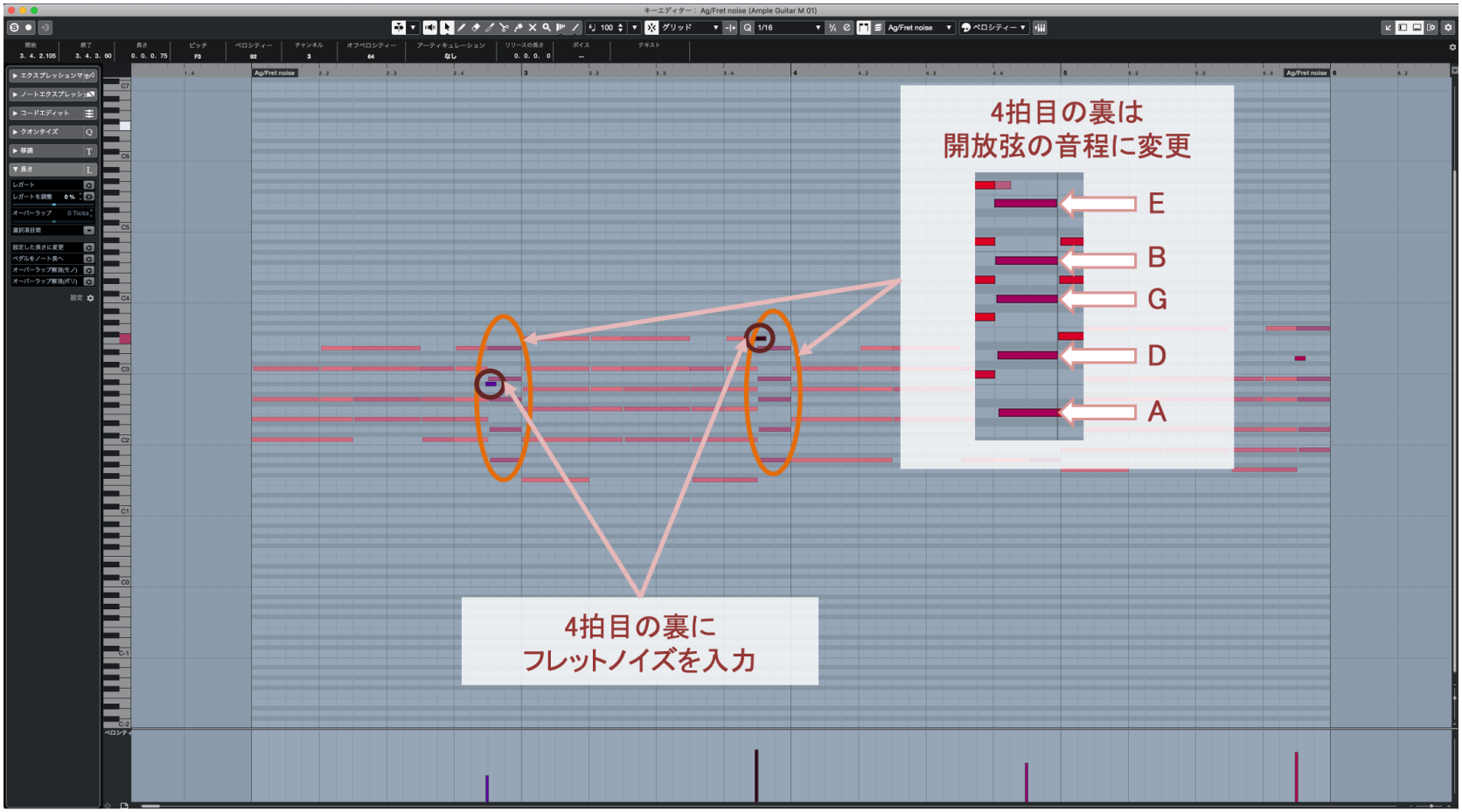
発音する弦の数を調整～ベロシティをランダマイズ



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

コードチェンジの打ち方



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA